



「施設・設備の適正利用や障害者等の理解促進に向けた普及啓発」取組事例①

心のバリアフリーハンドブック「私にもできる支えあいまちづくり」(町田市)

取組内容

- 肢体不自由、視覚、聴覚障害だけでなく、知的障害や精神障害なども含め、障害者理解を幅広く進めるための入門書として作成
- ハンドブックは、ホームページに掲載しているほか、冊子として作成し、市役所などの公共施設において配布するとともに、市内小中学校に教材として提供している
- 町田市福祉のまちづくり推進協議会に「心と情報のバリアフリー推進部会」を設け、内容を検討し、2003年3月に初版を発行
- 2008年に改訂を行い、知的・精神障害者への配慮を追加で掲載

取組のポイント

- 各障害等の状況ごとに左ページに困っていることとして、具体的な場面での事例を記載し、右ページに、それに対して「私たちにできること」として、コミュニケーション方法、手助けの方法等について記載
- 絵や写真を多く取り入れることで視覚的にも理解しやすく、小さな子供から大人まで幅広く利用できるような内容としている
- 小中学校での授業や講演会のほか、生涯学習センターや社会福祉協議会などにおける一般市民対象の福祉講座や、庁内の職員研修(主に新人研修)で活用している



心のバリアフリーハンドブック(表紙)



イラストを活用したわかりやすい内容

